

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500704		
法人名	NPO法人ヒューマンネット 大地の翼		
事業所名	グループホーム うぐいす		
所在地	宮若市本城1104番地		
自己評価作成日	平成30年11月20日	評価結果確定日	平成30年12月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成30年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域の人と交流しながら、利用者が安心して暮らせるグループホームをめざします」の理念に沿い、ボランティアを多く受け入れ、カラオケ、踊り、傾聴、行事のお手伝いなど外部の方との触れ合いを大切にしています。毎日のラジオ体操の後に深呼吸を取り入れたり、身体全体の運動をして体力アップを図っています。利用者にとって外出が何よりの楽しみの為、花見、紅葉狩り、地区の敬老会出席で外出しています。毎月の家族会では家族だけで話し合う時間を持って頂き、忌憚のない意見を頂いています。運営推進会議では利用者の状況、ヒヤリハット、行事等を報告し、率直な意見を頂いています。ミーティングでは家族会や運営推進委員の意見を踏まえ、職員の気づきに繋げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議は多彩なメンバーの参加が継続し、夏祭り、クリスマス、餅つきなどの3大行事は恒例となり、毎月開催されている家族会は、前入居者の家族が法人理事に就任され、率直な意見をいただいている。同一目線・コールの駆けつけ、傾聴を取り入れた運営理念の実践に努め、すぐに興奮して周りトラブルになる方も少しずつ落ち着き、入院中は食事も摂らなかつた方は、一匙ずつの食事支援で今では自分で摂取されるまでになっている。又、かかりつけ医の紹介で訪問看護師と連携して2名の入居者の看取りを行っている。何ごとも入居者の思いに合わせて職員たちがチームワークで支援に励む姿は入居者達の支えになり、外出行事に家族の参加や協力、ボランティアの参加を得ながら、今後も地域包括ケアの取り組みが期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームうぐいす**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人と交流しながら、利用者が安心して暮らせるグループホームを目指します。より具体的な内容(同一目線・コールの駆けつけ、傾聴)を取り入れた、運営理念を掲示、毎朝の朝礼で唱和し、実践に繋げる様努力している。	入居された方の情報を共有しながらホームでの生活を支援することが理念の実践と職員は励んでいる。症状の悪化に対して、職員を交代しながら入居者に合わせた支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組合に加入し、回覧板を通して、地域の情報を得て、出来るだけ行事には参加している。餅つき大会には地域の小学生や家族も来られている。今年はボランティアの方が植樹しているコスモスを見に行った。	夏祭り、クリスマス、餅つきなどの3大行事は恒例となり、野菜ができたから取りにおいでと声がかかるのも恒例となっている。地区公民館での敬老会に参加しているが、最後まででの参加は難しくなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域主催の行事、グループホームの行事の際に認知症の方に接して頂き、理解を深めて頂いている。運営推進会議では認知症にの方の対応の仕方等伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、行事、研修報告等、情報提供している。会議録は整備し、欠席した家族には会議の内容を郵送している。月1回のミーティングでも話し合っている。現在は拘束、虐待などを議題とし話し合っている。	多彩なメンバーの出席で開催され、身体拘束適正化の議題も話し合われている。全家族に議事録が配布され、運営推進会議の指針に謳った守秘義務を遵守した会議内容を公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には参加して頂き、情報交換を行っている。市役所からは毎月空室の問い合わせがあったり、些細な事でも相談し、アドバイスを頂いている。	身体拘束適正化の一環で地域包括支援センター職員に、身体拘束の講義を依頼している。相談事はその都度、解決へのアドバイスをしてもらうなど、日頃から連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会の報告を通し、理解を深め、話し合っている。利用者様の変化していく状態を確認しながら、拘束しないケアに取り組んでいる。事故防止のため、玄関、勝手口は施錠している。	身体拘束適正化指針を整備し、家族会で説明している。家族会では、危険があればまず対処との意見もあり、対処の時の声かけに注意している。ミーティング時に虐待のチェックリストで身体拘束をしないケアに努め、夜間の転倒防止はセンサーマットで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	運営推進会議やミーティングで虐待防止法について学び、グループホームにおけるご家族との会話や職員のケア、職員間の会話などに注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者様はおられないが、ミーティングで研修会に出席した職員より報告してもらって、理解、共有している。玄関にはパンフレットを置き、新聞等を通して知識を得ている。	現在は、身元引受人がいない入居者はなく、制度の活用はないが、必要時は関係機関に繋げる予定である。玄関のパンフレットは、入居者の収集癖で不足することもある。	多様な家族関係が考えられることから成年後見制度や日常生活自立支援事業のパンフレットを整備し、入所時や必要時に説明できるように願います。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明は勿論だが、内容の変更の度に文書で説明し、理解して頂いている。リスクのあること(外出等)は家族会で再度説明し、理解・納得して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月開催している家族会では家族だけで話し合う機会を設け、率直な意見を頂いている。利用者様にも管理者が個別に話し、要望や意見を聞いている。ミーティングで話し合い、対応している。	毎月開催されている家族会は、前入居者の家族が法人理事に就任され、率直な意見をいただいている。日頃も家族の訪問を歓迎し、要望や意見を表出できるよう対応している。遠方への外出が家族の協力で可能になっている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングでは理事長、管理者は毎回出席し、職員は出来るだけ参加し、意見交換している。毎日の申し送りでも提案は日誌に書きケアに反映するようにしている。	ミーティングや申し送りは意見を出しやすい。古くなったベッドの買い替えが計画され、認知症状の悪化で周りとうまく接することができない状態を、職員が提案した食卓の席替えで良好にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者様が高齢のため、入退院を繰り返したり、建物等も年々老朽化するため、設備費がかかり、給料まではひびかないのが現状であるが、昨年秋に上昇で見直した。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	定年制度はなく、健康であれば、性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。シフトを組む時には希望休を尋ね、趣味、病院受診、家族との触れ合い等に時間を活用してもらっている。	40から70歳代の職員が勤務し、個々の生活スタイルに応じたシフトが組まれている。ロコミなど紹介の職員がほとんどで、夜勤専門の職員が、日勤しかできない職員との協力体制で入居者が安心できる暮らしを支援している。資格取得までは希望がないが、ケアの研鑽に励んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングや利用者の立場に立ったケアを確認し、毎朝の朝礼でも同一目線・コールの対応・傾聴を目標に利用者に沿うケアの意識統一している。	行政主催の人権研修に管理者が職員とともに参加して伝達講習をしている。入居者の立場や目線を合わせて考えるケアを継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、GHみやわか等の研修に参加した内容をミーティングで話し合い、ケアの向上に努めている。新人職員は主任が力量に合わせた指導をしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GHみやわかには出来るだけ参加している。同業者との交流は視野が広がる意味でも大変勉強になり、サービスの質の向上に役立っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は本人、家族、管理者等との話し合う機会を設けている。何気ない会話の中に本人の気持ちが出ると思うので、管理者は出来るだけ自室にて傾聴するようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が来られているときの様子や言葉には注意を払い、家族の要望、意見や悩みを聞き、信頼関係が築けるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まで利用していた施設、家族からの情報を参考にし、ご本人にとってより良いサービス利用が出来る様に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみやカレンダー捲りを手伝ってもらったり、カルタ、カラオケを一緒に歌うなど共に過ごしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族会の出席、行事(周年、夏祭り、餅つき大会)で本人は勿論、家族、職員間の絆を深めご本人が安心して暮らせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出は自由にして頂き、利用者様のお友達や親せきの面会や外出も大いに歓迎し、馴染みの関係が途切れないようにしている。。	家族や近所の方が買い物のついでに来訪したり、趣味の書道仲間が訪れる入居者もある。近所の方を忘れてたり、家族と自宅へ帰られても夜を一緒に過ごせなくなるなどあるが、近所から野菜が届いたり、外出だけでも関係が途切れないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲を把握し、孤立しないように席替えをしたり、柔軟に対応している。自室で過ごされることが多い利用者には時々、訪室し、声掛けするよう心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の葬儀や初盆には必ず、お参りに行っている。亡くなられた利用者様のご家族にも行事案内を送り、行事等に参加して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者やご家族から生活歴等を伺い、入居前の情報も地域のケアマネージャーや病院のソーシャルワーカーからも聞いている。利用者の動作、表情を見ながら対応している。	ケアマネージャーは毎回入居者に直接、思いや意向を問いかけている。毎回家に帰りたいという入居者や、認知症の進行で不安感が強くなる入居者の思いを受け止めながら、支援に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族等から今までの生活歴や馴染みの暮らしを詳しく聞いている。また利用者様同士の会話の中から理解を深めることもある。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のミーティングでは個別にケアカンファを行い、心身の状態、残存機能の把握に努めている。毎日の申し送りや介護経過からも現状を把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、かかりつけ医等から得た情報を基にミーティングで話し合っている。趣味や長年習慣となっていることを介護計画に反映させ、個別な介護計画作成に努めている。	ケアカンファレンスで職員たちの気づきや意見で介護計画の見直しをしている。入院中は食事も取らず抵抗が激しかった入居者は、一匙ずつ食事が摂れるように支援し、今では自分で摂取されるまでになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別介護記録と介護日誌等で情報を共有している。ケアプランカウント表を用いて、毎日のケア内容の確認をしたり、職員や家族等から得た情報と本人とも話し合い、毎月モニタリングし、介護計画を見直している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じて介護計画を見直している。問題点があれば、職員全員で解決出来る様、話し合っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の神社、初詣に始まり、夏祭り、敬老会、餅つき大会等地元役員、子供会、ボランティアと一緒に楽しんでもらっている。年2回の避難訓練では地域の方々も参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を優先している。往診して頂いたり、家族と連携して受診を心掛けている。	入居時に協力医療機関の往診以外は家族の同行の受診をお願いしているが、状況次第で受診を支援している。調査日も訪問歯科の訪れがあり、眼科や耳鼻科などの受診は職員が同行し、家族に受診内容を報告している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態把握に努め、少しの変化も看護師に相談し、利用者が早めに受診出来る様努めている。看護職員も介護記録や介護日誌、職員からの情報で利用者の健康管理をしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来るだけ足を運び、情報収集に努めている。病院職員とは日ごろから良好な関係が築ける様、グループホームの情報も伝え、共有している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から運営推進会議や家族会で終末期のあり方について話し合っている。重度化する前に病院、家族、管理者等でよく話し合い、事業所のできる範囲を理解してもらい、ご家族の気持ち優先で話しを勧めていくようにしている。	かかりつけ医の紹介で訪問看護師と連携して2名の入居者の看取りを行っている。変化のたびに医師から家族への説明があり、穏やかに旅立たれている。葬儀の後、家族の希望でホームにお別れに立ち寄られている。	これまでの経験を振り返り、看取りの指針作成や意向確認書、看取り至る話し合い経過記録書の整備で、入居者の穏やかな看取り支援を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別に緊急マニュアルを作成しており、すぐに対応出来る様にしている。研修やミーティングでも初期対応の仕方を定期的に行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、運営推進会議や家族会で災害対策に備え、家族や地域の方々の協力を得て、避難訓練をしている。日中だけでなく、夜間を想定した訓練も行っている。	春には夜間想定で、秋は昼間の想定で避難訓練をしている。今夏には大雨の災害で地区の公民館に避難している。避難所がホームの入居者だけだったことや、実際の被害がなかったことが幸いしたが、今後の課題として対策に活かしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同一目線・コールの駆けつけ・傾聴を目標に掲げ利用者の気持ちを大切に、穏やかな対応に心がけている。職員同士気づいた事はその場で話し合っている。	威圧感のある言葉使いや大声での声かけをせず、排泄誘導時は傍に寄って目線を合わせて穏やかな配慮をしている。入居者の呼称を「ちゃん」の方が良い場合は家族会で説明している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居前に興味でされていた書道を、1年かけて勤め、ようやく書道をされるようになった。今では張り切ってされている。利用者様の出来そうな事、喜ばれる事に力を注いでいる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご本人の希望に沿うように努力している。特に食事時間、起床、就寝時間は本人のペースに合わせている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回の散髪ではカットだけでなく、パーマやカラーの希望も取り入れている。日頃は本人の希望に沿って身だしなみが出来る様にし、外出時はお化粧したり、おしゃれを支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時には好みを尋ね、利用者の誕生日、旬の物や畑の野菜で食事を作っている。テーブルを拭いたり、湯呑みを下げるなど手伝ってくださっている。	献立は職員が立てているが、行事と一緒に食べる家族からはおいしいと好評である。調査日は入居者の大好きなちらし寿司を入居者は黙々と完食していたが、職員もみんな楽しんで食事風景である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて、メニュー表を作っている。食事量水分量は個人別に記録し、特に水分量は記入表を作り、水分摂取には気を付けている。ミキサー食を提供の利用者もいる。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろん、歯科医の指導により必要に応じた口腔ケアを行っている。その方に合った歯ブラシ、スポンジブラシ、舌磨き歯ブラシを使用し、力量に合わせて介助を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせて、トイレやポータブルトイレ誘導を行っている。尿意、便意の無い方も定期的に声掛けし、トイレに誘っている。	目線や動きで個々の排泄パターンを察知しながら、トイレでの排泄を支援している。頻尿で失敗も多い入居者はトイレに近い部屋に移り、ポータブルトイレやトイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入し、毎日排便チェックを行い、便秘の時は出来るだけ薬に頼らず、身体を動かしたり、通じの良くなる食べ物を提供するなどして便秘解消に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午後からの入浴で、週2～3回位入れるように計画している。入浴を拒否される方には声掛けを工夫したり、担当職員を替えるなどの対応をしている。	午後から個別の入浴を支援しているが、ふらつきがある日などは職員2名で対応するなど、入居者の体調に合わせている。毎回入浴を拒否される入居者も、しぶしぶでも入ると気持ちいいと笑顔でゆったり入浴している。一日2回陰部洗浄を支援している入居者もいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、ご自分で休息のできない方は、昼食後に昼寝をしてもらっている。安心して入眠出来る様、出来るだけ昼間は活動的(運動、カラオケ等)に過ごして頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりに合った服用方法で服薬して頂いている。薬が変わった時は観察を強化し、早めにかかりつけ医に相談している。内服薬一覧表も各利用者ごとにファイルしており、いつでも確認出来る様にしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存能力が活かせるよう出来る事(テーブル拭き、洗濯物たたみ等)お手伝いして頂いている。長年されていた趣味(習字、歌等)も続けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月ごとの行事の外出(初詣、花見、地域の敬老会等)と天気の良い日はグループホーム前でお茶やおしゃべりを楽しんでいる。家族の協力も得て、お彼岸や盆などはお墓参りに行ったり、ご本人の実家に行かされている。	家に帰りたくと希望される入居者もあり、家族に連絡するが外出だけで泊まることは困難になっている。外出行事に家族の参加や協力、ボランティアの参加もある。車椅子での外出で入居者を2,3回に分けているが、ボランティアのお手伝いで安全に外出している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームからの外出の際はご自分で管理できる方は小遣い程度渡している。管理できない方は職員が付き添って、買い物をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者自身で電話を掛ける事が出来ない為、利用者の要望にて職員が取り次いでいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花はもちろん、利用者様の書や外出時の写真、運動会や母の日などの行事の写真を貼っている。季節感を取り入れた壁の環境整備に努めている。リビングが暗かったので、照明を増やし、新聞等が見やすいようにした。	玄関は、靴やパンフレットなどが気になる入居者のため、目に付かない場所に保管し、整理整頓をしている。ホールの壁に入居者達の誕生日の正装姿の写真が額縁に飾られ、避難訓練やコスモス見物のスナップ写真が掲示されている。高い天井の梁が懐かしく、厨房から美味しそうなおいが漂っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関には長椅子を置き、リビングにはテーブル席以外にソファ、椅子を置いて、好きな場所で過ごして頂いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が長年使われていた家具やベッド等持ってきて頂いている。好きだった絵や人形等思い出の品を筆筒の上に置いている方もおられる。壁に家族手作りの飾りや、家族写真も貼っている。	家族が作成した素敵な額縁を飾ったり、車椅子が動きやすいようにベットや家具が配置されたり、畳敷きの部屋、曾孫さんが描いた絵や孫などの家族写真を飾った居室など、其々居心地よい設えをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレの手すりを設置している。以前あった玄関ポーチの段差も家族からの意向で段差をなくした。各部屋には表札が置かれ、トイレや浴室も分かり易い言葉で書かれている。		